

陸上運動部部便り

2007年10月号

京大戦

目次

1 京大戦	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	2
1.3 女子主将の言葉	2
1.4 試合経過	3
1.5 試合結果	10
2 新主将・新女子主将・新主務の言葉	13
2.1 新主将の言葉	13
2.2 新女子主将の言葉	13
2.3 新主務の言葉	14
3 自己記録更新者一覧 2007.9.8~10.7	14
4 2006年度部内5傑 2007.10.7現在	14
5 主務より	16
5.1 応援OB・OG紹介	16
5.2 行事予定	17
5.3 学生幹事の交代	17
5.4 連絡先(慶弔等)	17

1 京大戦

1.1 監督の言葉

男子は6年ぶりの勝利 女子は善戦するも惜敗

監督 寺田 秋夫

男子第80回女子第6回の京大戦は駒場開催では前例がないほどの快晴の好コンディションで行われました。

男子については、昨年のこの試合後には、京大のエース級が軒並み卒業する'07年は、本学が勝って当然と考えておりましたが、当方は純短系の良い選手が揃って退部してしまったり、京大のエース級で数名卒業しなかった選手がいたりエントリーを決め

る段階では、やや有利とは予想しながらも接戦は免れ得ないと考えていました。

ところがエントリーを見ると京大は多くの選手を出そうという配慮が見られるような布陣であり、本学が午前中を10点勝ちでしのぎ、長年辛酸を嘗め尽くした投擲系で勝ち越せれば勝てるだろうと思いつながら当日を迎えました。

最初の100mは3点負け以内に収めたいと思っていたところで、京大勢は動きに精彩がなく、東大の3点勝ちで始まります。課題の投擲もハンマーで寺島(2年)が自己記録更新で優勝の3点勝ちとし、勝ちパターンに入れそうかと思われたところで、圧勝を見込んだ110mHになります。ところが、期待の1年谷谷がハードルを引っ掛けて転倒してしまい、一瞬いやなムードになりましたが、冷静に立ち上がり完走し1点を取りに行き、これで対校戦としての雰囲気がいまりました。

また、投擲で最も不安だった円盤投げも3点負けに抑え、幅跳びも順当に9点勝ちとし、4継が終わった時点で15点勝ちとなり楽勝かと思われる、差をつけたかった棒高跳びは1点勝ち、覚悟はしていたものの800mで上位独占を許し、京大のしぶとさを見せ付けられます。そして迎えた鬼門の200mでコーナー出口で福田(3年)の腿がつってしましますが、ここでびっこを引きながら必死の形相で同じく負傷の京大エースの久保(2年)を追っての完走は立派で、しかも今村・藤本の4年コンビで1、2位を獲得し3点勝ちとし、福田のお蔭で何が何でも勝つという雰囲気は漲り、後は史上2回目という槍投げの上位独占や三段跳びの予定通りの大差の勝ちで、最後のマイルリレーも1年兵頭の奮闘で勝利し、結果189対162(トラック引き分けフィールド27点勝ち)の大勝利となりました。

双方がお家芸種目で力を発揮し、手薄な種目を確実に取ったほうが結局勝ったという事で、これぞ対校戦という試合でした。京大の短距離勢が良い状態で来ていたらどうなったかわからない試合でしたが、

当方は今年はずいぶん試合を繰り返してしまった中、最後にエースがしっかり力を出し、中堅選手が本番で底力を出すという良い試合で締められたこと、何より絶対に勝つのだという競技に一番重要な姿勢が全体に行き渡ったのが良かったです。

女子は、400m以上種目では日下(2年)の3冠制覇は確実で、2人目を出せば同点も確定的なので、優勝の行方は、京大早瀬(3年)が制覇しそうな100mとフィールドで負け越さないでリレー勝負に持ち込めるかということでした。

ところが、100mと幅跳びで1、2位を京大にとられてしまい、厳しい流れになりかけた中で、400mで清水(2年)が大健闘し2位を獲得し挽回します。砲丸で5投目まで楠木(2年)が早瀬を押さえていたところでは総合でも勝てるのではと期待させましたが、最後は早瀬が実力を出し2、3位の同点とされます。3000m前では4点負けで、4継のことを考えると無謀でしたが、万一4継京大が失格になるようなことがあれば4継メンバーの清水を3000mに出し1点取れば最終は同点引分けということで、清水が完走目標で走り、4点差を保ち4継に臨みます。

4継は走力的には京大が上でしたが、本当に京大の2-3走がバトンを飛ばしてしまい、東大はしっかり走り1位を確保します。京大もバトンをつなぎなおして完走するも、黄旗がでており、一瞬本当に奇跡が起きたと思いましたが、判定はセーフで京大のゴールも認められ、本当に良くやりましたが2点差の惜敗でした。

さて、今年は春先まで、定期の対校戦に対しては楽観していたのに結局、京大戦にしか勝てなかったことは残念でしたが、男子は対校選手常連の現4年生の多くが残りますので、今回の勝ちたいという気持ちと勝つ喜びを忘れないようにオフシーズンを過ごし、来シーズンを迎えたいと思います。また、女子も殆どの選手が残りますので、今の競技で強くなるという一体感を保ちつつ冬を過ごし、手薄の中長距離に部員を獲得して来期は本当に良いチームにして戦いたいと思います。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 倉員 智瑛

最後の最後でキめることができた、切にそう思い

ます。接戦が予想されていた今大会ですが、総合得点争いが気になったのも800mくらいまでで、残りの種目は総合優勝に向かって一直線でした。今村、藤本、関原、庄司、松本、倉員ら4年生が奮起し、尾崎、武安、谷、兵頭ら多くの下級生が後押ししてくれて、トラックは同点優勝、フィールドでは圧勝し、総合優勝という最高の結果を得ることができました。

一年間、主将を勤めさせていただきましたが、チームも私自身も長い間結果が出せずに苦しんでいました。しかし、遅くはなったものの主将として見せたかった姿を見せ勝利へと導くことができました。部員たちに最高のプレゼントを贈ることができ、最高の気分です。

今大会をもちまして主将の任を尾崎へ引き継ぎますが、彼を軸にした新チームは来年、さらなる活躍を見せてくれるものと信じています。諸先輩方や仲間たち、そしてその他多くの関係者の皆様に改めて感謝の意を表しつつ、最後の主将の言葉とさせていただきます。

一年間、本当にありがとうございました。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 宮崎 彩

今年の京大戦は、80周年という大きな記念すべき節目の試合でした。大きな競技場ではありませんでしたが、普段練習しなれているホームグラウンドで、多くのOB、OGの方々のご声援のもと部員一同で戦えたことは部員一人一人にとって大変に力強いものでした。

去年に引き続き、今年の京大戦では大変厳しくなることが予測されました。幅跳びのエースである1年の高山は怪我により欠場するため、6人でトラック5種目、フィールド2種目を一番効率よくこなす方法を全員で模索しました。その結果、専門外の種目をかねなければならぬ選手が続出しましたが、それでも一人一人が200パーセントの力を出して最後まで戦い、自己ベストを連発し、京大を相手に接戦で圧倒することができました。惜しくも2点差で京大には総合で負けてしまいましたが、優勝に値する充実した試合であったと思います。

トラックでは2年日下がリレーを含めた4冠を果たすという素晴らしい結果を残しました。また短距離選手である2年清水も専門の100mではない400mで京大を圧倒、2位を獲得し、全くの専門外である3000mを完走しました。最後のリレーでは、日ごろ

の練習の成果が十分に発揮され、スムーズなバトンパスと走りでも勝利することができ、一点をも逃さない意気込みでトラック優勝を獲得しました。

フィールドでも様々な健闘が見られました。2年の楠木は自己ベストを50cmほど更新し堂々の2位、4年の三谷も7月の入部から日が浅いにもかかわらず7m台を投げチームに貢献しました。2年の大久保はトラックでは思うように動けなかったというものの幅跳びで自己ベストを大幅に更新し、4m52で3位、宮崎も自己ベストを更新しました。

最後まであきらめず、一人が1点以上を勝ち取り、最後のリレーで同点に持ち越せる可能性を残せた健闘は、6人の出場選手、8人の女子部員全員で得た結果です。そして、私たちが応援してくださった部員の皆様、OB、OGの先輩方、監督方のサポートがあったからこそこのような素晴らしい試合を行うことができました。

1年間という短い間でしたが、初心者であった私がこれまで女子主将という名前を背負いながら成長することができたのは、皆様のご声援があったからです。ありがとうございました。東大陸上部で戦えたことを誇りに思います。

女子部は、進化を続ける後輩5人がこれからさらなる飛躍を続け、強いチームへと成長していきます。今後とも暖かい目で見守っててください。ご声援のほどよろしくお願いいたします。

Thank you very, very, very much!!!!!!

1.4 試合経過

トラック

10:30 男子100m 決勝

記念すべき第80回京大戦、最初のトラック競技がこの男子100m。1日の流れを作るといっても過言ではないこの競技には、3レーンに福田(3年)、5レーンに藤本(4年)、7レーンに都井(2年)の出場。今季の記録を見ると、勝ち越すのはやや難しいと思われた。藤本は今季自己ベストを出し、関カレB標準を突破しているが、対校戦を含めまだタイムが安定しない。福田、都井は単純にタイムで京大勢に今一步及ばない。

京大戦の始まりを告げるスタートの合図で、選手が一斉に飛び出す。その中で、福田が一步抜き出る。非常にいいスタート

を切った。しかし、50mほどの所で京大の6レーン吉田の圧倒的な追い上げに追い抜かれる。この時点で吉田が単独トップ、3mほど後ろに東大勢3人、そしてまた3mほど空けて京大の2人が続く。タイム的にはまだここから京大勢が追い上げてくるものと思われたが、ここからは大きな展開はなく、このままゴール。結果、藤本が11"51の2位、福田も11"51で3位、都井が11"64の4位となった。この時の風は-1.6mであった。東大は勝ち越して、よい流れを作った。

タイムを考えると、なかなか向かい風が強かったことも影響してか東大、京大とも実力を出し切れない結果に終わった。慣れない東大のトラックに京大が順応できなかった事も、もしかするとこの結果の一因かもしれない。

10:35 女子100m 決勝

女子100mには、4レーンに清水(2年)、6レーンに大久保(2年)が出場。2人とも多種目出場のうえ、男子同様、今季の記録を考えても勝ち越すのは難しく思われた。しかし、男子が勝ち越した勢いに乗って何とか勝利を手にしたいところ。

スタートの音で全員きれいに飛び出す。その中で清水が頭ひとつ前に出るが、やや緊張したか、上体が早く起き上がってしまい、持ち前のダッシュ力を活かせなかった。一方で大久保は、逆に力の入りきらないスタートとなってしまった。その後はリラックスした大きい動きに切り替わり、前を行く京大勢や清水との差を徐々に縮めるが、スタートで開いた差を埋めるには100mはあまりに短かった。結果、清水は13"85の3位で、大久保は14"10の4位でゴール。このとき、風はなかった。

悪い意味で事前の予想通りの結果となってしまったが、2人とも2年生でまだ先があるので、来年は部員数をさらに増やし、各選手の負担を減らしたうえでリベンジを果たす事が出来ると信じたい。

10:45 男子1500m 決勝

齊藤(4年)、月崎(4年)、松本(4年)の出場。七大戦の1500m優勝者である京大の小山(俊)にしっかりついていき、点数を稼

ぎたい。東大の選手は全員4年で、いずれも経験豊富な選手であり、それを活かしたレース展開が期待される。

スタート後、東大勢は3番手、5番手、6番手に位置取りをし、落ち着いた入りを見せる。400mを66"で通過。5番手の松本、6番手の月崎が、4番手につけていた京大の選手をかわし順位を上げる。依然、集団は1列のまま、800mを2'14"で通過。このあたりから最後尾につけていた京大の選手が遅れ始め、集団は5選手となる。1000mを過ぎると集団が一度小さくなるような動きを見せるが、残り一周の鐘が鳴ったところから、京大の2選手がペースを上げ始め、東大勢が遅れをとる格好となる。食らい付いていこうとするも、差はなかなか縮まらない。しかし、京大の2番手の選手が残り100mから疲れを見せ始める。必死に追ってきた松本がゴール直前でこれに並び、胸の差で競り勝ち、4'04"32の2位。月崎、齊藤も追っていくも及ばず、月崎は4'07"71で4位。齊藤は4'08"13で5位であった。

小山(俊)に1位を許し、力を見せられ、また点数でもこの種目で1点負けを喫してしまい、悔しい結果となった。

11:00 男子 110mH 決勝

2レーンに尾崎(3年)、4レーンに酒谷(1年)、6レーンに武安(3年)の出場。尾崎は優勝候補であり、調子を上げてきている酒谷と武安は京大の2番手に勝てば、スコンク勝ちが難しいにしても、勝ち越しが期待できたレースだった。

尾崎は、七大戦では7位という残念な結果に終わっていたが、今回の京大戦では、序盤から安定した走りで後続を引き離し、2位に約1秒の差をつけて、15"47の1位でゴール。武安は、京大の2人に負けてしまい、16"58の4位でゴールした。酒谷は、スタートダッシュが上手くいかず焦ってしまい、2台目のハードルでまさかの転倒。23"65で6位という残念な結果になった。だが、転倒しても体勢を立て直し、走り切った1点でも取りに行くという姿勢には、対校戦への責任感が感じられた。このレース、風は-0.9mだった。

この種目での東大の得点は10点で、負け越しとなった。しかし、3人とも3年生以下なので、来年は勝ち越してくれるだろう。また、武安はまだハードリングがそこまで物になっていないので、まだまだ競技力の向上が期待できる。

12:05 男子 400m 決勝

2レーンに深澤(3年)、4レーンに兵頭(1年)、6レーンに梶岡(3年)の出場。短距離陣は苦戦が予想されたが、100mで勝ち越すことができたのでこの勢いそのまま勝つて次に繋げていきたいところである。調子がいいと語っていた深澤は前半から積極的な走り。200mを過ぎたあたりでトップになる。ここから兵頭には追いつかれるもののホームストレートに入ったところで2位となり、そのまま危なげなくゴール。51"05の2位でこの後の400mH、マイルリレーへとつながる走りを見せた。一方、あまり調子はよくないと言っていた1年のエース兵頭は前半を抑制した走りであったが、200mを過ぎてから一気に加速する。そのまま他の追従を許さず最後の直線を独走し50"17の1位でフィニッシュ。きっちりと役割を果たしてくれた。梶岡は200mで深澤、兵頭には置いていかれるものの京大勢とは互角の走りを見せ300mを過ぎたところで僅差の4位であった。その後若干差を広げられるものの粘りを見せ、最後の最後で3位の京大選手を追いあげる。ひょっとしたらスコンク勝ちか、ということまで追い上げるが結果は惜しくも51"58の4位で3位とは0"02差であった。

結果、この種目での東大の得点は14点で京大とは7点の差をつけ、東大の勝利を一步進めた。ベストこそ出なかったものの、おのおのが自分の力を出し切った走りでの役割をしっかりと果たしてくれた。この後、最終種目である4×400mRもこの調子でがんばってほしい。

12:10 女子 400m 決勝

3レーンに日下(2年)、5レーンに清水(2年)の出場。持ち記録では上回っており、勝ち越しが期待される種目なので、しっかりと勝ちきって次につなげて欲しい。

日下はスタートこそ凡庸であったものの100mからぐんぐん伸び300mを過ぎたところではもう独走態勢となる。そのまま危ない走りでも63"53の1位でフィニッシュ。清水は短距離らしい積極的な走りで前半をぐんぐん飛ばす。100mを走り終えたばかりであり、ラストの走りが心配であったが最後まで粘って65"98の2位でゴールする。

両選手ともしっかりとした走りできっちりと勝ちきり、見事なスコルク勝ちで東大は7点を獲得した。女子部は部員数が少なく皆が多種目出場で、日下はこの後800m、3000m、4×100mRの3種目が、清水も3000m、4×100mRの2種目が控えており、苦しい戦いではあるが、次を期待させる見事なレースであった。

12:30 男子4×100mR 決勝

5レーンに都井(2年)-藤本(4年)-福田(3年)-尾崎(3年)の走順で出場。100mでの勝ち越しを勢いに勝利を得たいところであった。

1走の都井は得意のスタートを生かして順調な滑り出しを見せ、京大に差をつけ2走にバトンをつなぐ。2走の藤本はわずかに出遅れ都井とのバトンパスがまごつくがその後は快調な走りを見せ、京大との差を保つ。3走の福田とのバトンパスはうまく決まるが福田は100mを走った後のせいか動きが悪く、京大が徐々に追い上げてくる。福田は4走尾崎とのバトンパスでまごついてしまい、この際に京大が一気に抜き去ってしまった。尾崎は懸命に追い上げようとするが差を縮めることはできず43"14の2位でのゴールとなった。

出場選手全員が来季も残り、実力的に上の京大相手に途中まで優位を保っていたことは今後のリレーを期待させる結果ではあった。しかし相変わらずのバトンでのミスは今までの反省を生かしたのとは言えず東大の弱さを露呈した結果であったとも言えるだろう。

12:45 男子800m 決勝

齊藤(4年)、川口(2年)、渡邊(1年)の出場。京大は1分54秒台の選手を2人有しており、かなりの苦戦を強いられること

が予想されるが、何とか3番手に勝って点を稼ぎたいところ。

スタートから快調に飛ばす川口は、ブレイクラインをトップで通過。その後ろに京大の3選手が続き、渡邊・齊藤は落ちついて5、6番手につける。川口はそのまま集団を引っ張り、400mを58秒で通過。各々がスパートの機会を窺う中、残り300mで京大の佐藤、前川が先に仕掛け、ずっと先頭に立つと、そのまま後続を引き離しかかる。最後尾にいた渡邊・齊藤は若干対応が遅れ、必死に追走するが、前との差はなかなか縮まらない。ホームストレートで京大の3番手を捕らえるかと思われたがあと一歩及ばず、渡邊が1'58"83の4位、齊藤が1'59"03の5位でゴール。川口は粘りを見せたものの徐々に順位を落としていき、1'59"36の6位であった。

京大にスコルク勝ちを許してしまったわけだが、初の対校戦にも関わらず川口は大学新、渡邊も自己新に迫る記録で走り、2人とも来シーズンでの活躍が期待される。齊藤は箱根予選会に合わせた練習へとシフトしていたため十分なスピード練習を積んでおらず、加えて1500mの疲れもあり満足のいく結果を残すことができなかったが、この悔しさをばねに、最後の予選会で死力を尽くしてもらいたい。

12:50 女子800m 決勝

宮崎(4年)、日下(2年)の出場。日下は今大会4種目出場で、800mは400mからわずか40分後のレースとなる。この後にまだ3000m、4×100mRが控えていることを考えると、できるだけ余力を残して楽に勝ちたいところである。宮崎にとってこの種目は完全に専門外だが、何とか走りきって1点を確保したい。

日下は落ちついた入りで京大の選手に先頭を譲り、2番手で様子を窺う。順位の変動がないまま、非常にゆっくりしたペースで淡々とレースは進む。そして残り150mになったところで日下が満を持してスパートをかけ、2番手で降を一気に引き離し2'34"62の1位でゴール。予定通りのレース運びで今大会2冠目を飾った。宮崎は最終的には

離されてしまったものの、1周目まで集団についていく力走を見せ、3'00"34の4位でゴール。チームに貴重な1点をもたらした。

この種目は東大、京大ともに5点を獲得することとなった。

13:15 男子 200m 決勝

2レーンに藤本(4年)、4レーンに福田(3年)、6レーンに今村(4年)の出場。この前に行われた100m、400mでは京大に勝ち越しているだけあり、この勢いのまま200mでも点数差を広げたいところ。

今村は膝の怪我が心配されたが、それを感じさせないすばらしいスタートを切り、きついコーナーを難なく走り抜ける。藤本も、100m・リレーで見せてくれた走りは200mでも健在で、コーナーを抜けた時点で今村がトップ、藤本がその後を追う。京大の吉川と七野がさらにその後ろにつくという展開となった。福田は持ち前の力強いスタートダッシュを見せるも、50mほど過ぎたところで足が攣ってしまい、先頭争いから離脱してしまう。ところが、京大の久保も足の故障により戦線離脱。1・2位、3・4位、5・6位という3つのグループを作って後半のホームストレートを駆け抜ける。今村と藤本は、3位以降を全く寄せ付けず、残りの100mを走り切り、今村は22"70の1位、藤本は23"23の2位でフィニッシュ。福田は足の痙攣に耐え続けて、1点でも得るため残りの150mを、足を引きずりながら走り続ける。前方にはもう一人の故障者も懸命に走っており、二人には両大学から盛大な応援の聲がかけられた。そのまま順位は変わらず、福田は31"18の6位でゴール。この時の風は追い風1.0mであった。今村と藤本の快走と、福田の執念が、この種目で3点の勝ち越しを生んだ。

13:40 男子 400mH 決勝

1レーンに深澤(3年)、3レーンに酒谷(1年)、5レーンに門脇(3年)の出場。京大は54秒台の選手を2名、56秒前半の選手を1名を揃えてきたのに対し、東大は1番手でさえ京都大学の3番手にタイムで劣っており、かなりの苦戦が予想される。

酒谷と門脇が好スタート。特に酒谷は1

台目から先頭争い。一方、深澤は1台目から出遅れた。ハードル間で前との差を詰めるのだが、ハードルをまたぐところで失速し前との差が広がってしまう。しかし、4~5台目以降は400mで50秒台のタイムを持つ深澤がじりじりと順位を上げていく。逆に徐々にペースが落ちてきた酒谷と門脇であったが、酒谷はふんばり2~3番手を争う。門脇も必死に前の選手を追う。だがここで、前半から飛ばし積極的なレースをしてきた門脇がハードルに足を当て、無念の失速。そのままずるとペースを落とすことになってしまう。最終コーナーで、依然として粘りの走りを見せていた酒谷に深澤が追いつき、3位争い。2人で競い合い、前を行く京大の選手を追うものの、追いつくことは出来ず、そのままフィニッシュラインへ。自力で勝る深澤が先着し、55"78の3位、酒谷が56"20の4位となった。門脇は59"00で6位であった。

この結果、東大は8点を獲得した。酒谷は自己ベストを更新し、深澤は関東ICのB標準記録を突破した。負け越しはしたが、スコンク負けの可能性もあっただけに大いに健闘したレースであった。また、来シーズンに期待を感じさせるレースでもあった。

14:00 女子 3000m 決勝

日下(2年)、清水(2年)の出場。競技も終盤に差し掛かり、女子種目は残すところ、この3000mとリレーのみとなった。今の女子パートにいる中長距離部員は日下1人であるため、清水が短距離選手でありながら得点を稼ぐために出場した。両選手は共に本日3種目目の出場であり、さらにこの後のリレーにも出場する予定であるため、いかに体力を温存しつつ次のリレーに繋げるかが鍵である。

京大の両選手と日下が集団を作り、後方に清水が付く形でレースはスタートした。優勝の実力十分である日下は京大の選手の後ろに付いて、リラックスした堅実な走りを見せる。1000mの通過は4'03"というスローな入りで、3人で牽制し合うレースとなる。残り2周で日下がスピードを上げ前に出ると、京大の両選手は対応できず、そ

のまま差を大きく広げていく。最後は2位に100m近い差をつけ、日下は11'50"04の1位でゴールした。本職が100mの清水も苦しみながらも最後まで奮起し、17'49"32の4位でゴールした。

この種目では、本学は引き分けに持ち込んだわけだが、種目数が少なく1点の重みがより大きな女子の対校戦においては、日下の優勝はもちろんのこと、清水の1点の確保も大きな意味のあるものとなった。

14:20 男子 5000m 決勝

松本(4年)、石原(4年)、竹俣(1年)の出場。気温23℃、湿度59%の好コンディションの中でのスタートとなった。

松本が集団を引っ張り、最初の1000mを2'54"で通過。1200m辺りで竹俣と京大の1人が遅れ始め、さらに京大の1人が遅れ、先頭は松本・石原、近藤(京大)の3名に絞られた。3200m辺りから石原と近藤は松本からじわじわと離され、そのまま松本がわずかながらリードを保ったまま2位と3秒差の14'54"84で逃げ切り力通りの優勝。石原は近藤(京大)の後ろにつけるが、ラスト1000mで引き離され、必死に頑張るも及ばず15'12"52の3位でゴール。竹俣は粘りの走りで最後尾から京大の3番手を追い抜き、さらに4000m辺りでは京大の2番手にも迫る。ラストスパートで引き離されてしまったものの、5位ながら自己ベストの15'19"67でゴール。来シーズン以降の活躍が期待される好走であった。

この種目で東大は3点勝ちとなり、優勝を決定的なものとした。

14:50 女子 4 × 100mR 決勝

5レーンに大久保(2年)-清水(2年)-宮崎(4年)-日下(2年)の走順で出場。4走に日下を起用した新しいメンバーで臨む女子全体のラスト種目。フィールドの結果によって逆転優勝は不可能となったが同点となっているトラック種目で勝ち越しを狙いたいところ。

1走の大久保は良いスタートで出発。京大と互角なレースをし、2走の清水へのバトンパスもしっかりと決まる。清水は懸命に走るも京大にインレーンからじりじりと

詰められる。しかし、ここで京大にアクシデントが起きる。2-3走間でバトンが渡らずバトンを落としてしまった。京大は大幅に遅れをとる。一方清水と宮崎は上手くバトンをつなぐ。宮崎はそのまま順調に走り、4走日下にも無事バトンは渡る。日下は京大と差を保ったまま走り抜き53"63の1位でゴールした。

勝利の最大の要因は京大側のミスであるがそれ以上に東大の確実なバトンパスがそのアクシデント勝利に結びつけたと評価できるのではないだろうか。4年の宮崎は今回の京大戦をもって引退となるが他の選手は2年生以下であり女子リレーは今後の発展を期待して良いだろう。

15:00 男子 4 × 400mR 決勝

2レーンに梶岡(3年)-深澤(3年)-小澤(4年)-兵頭(1年)の出場。シーズンを通じて納得いく結果が出せずにいた短距離パートであったが、本大会では京大優位の下馬評を見事に裏切った。その絶好の追い風に乗って、大会最終種目を勝利で飾りたいところである。

号砲が鳴る。1走の経験は乏しい梶岡であったが、果敢に飛び出し、第2コーナー出口まで猛烈に加速。直走路では一転ゆったりした走りを見せ、外側を走る京大・押野をバックストレート中央付近で早くも捉える。後半200mは押野の粘りもありほぼ二者並走。僅かに東大リードで両校2走にバトンが渡る。深澤は多種目出場の疲れを考慮され今回慣れない2走に下がったが、それでもなお思い切り良く序盤を飛ばす。しかし120m過ぎからじりじりと京大・藤崎に詰められ、200mを過ぎるとデットヒートの様相。それでも第4コーナーを回ってからは必死の走りでリードを死守。結局3mほど差でバトンを繋ぐ。短チーフの意地を見せたい小澤は一転落ち着いた入りを見せる。経験を感じさせる安定した走りでバックストレートに進入するが、ここで京大・佐藤の猛烈な追い上げを受ける。小澤は対応しきれず140m付近で敢えなく抜き去られ、200m過ぎからは苦しいレース展開に。それでもラストは必死の形相で粘り、ピハ

インドを最小限に抑えてアンカーに望みを託す。4走の兵頭は一年生ながら冷静な入りで前方を窺う構え。第2コーナー出口から京大・前川が飛ばすが、これにも落ち着いて対応し200m付近まで両者の差はあまり縮まらない。そしてコーナートップで前川に疲れが見えると、ここぞとばかりに爆発的なスパートをかけ追走。300m付近で抜き去り、その後も追撃を許さず3'22"61の1位で堂々フィニッシュした。

フィニッシュ後、勝利を祝う応援団の輪に囲まれたマイルチーム。小澤を中心とした結末ある4年生にとって最後の大会であったが、一方で新たな芽も着実に育ってきている。来期の健闘に大いに期待したい。

フィールド

10:30 男子走高跳 決勝

持永(5年)、倉員(4年)、小福田(3年)の出場。この競技は両校とも記録が拮抗しており、一つのミスが勝敗を分けるであろうと思われた。晴天の下、気温も高く、良いコンディションであった。

倉員は1m65からの開始。倉員は余裕をもって、1跳目でこの高さを成功させる。次の高さは1m70。倉員はこの高さも1跳目で成功させた。持永、小福田は1m70からの開始。持永は1跳目にバーを落としてしまうものの、2跳目に難なくこの高さを成功させる。小福田は1跳目、2跳目にバーに体を当ててしまうが、3跳目に成功させる。次の高さは1m75。倉員はまた1跳目でこの高さを成功させる。持永は高さのある惜しい跳躍を見せるものの、バーに足があたり3跳ともバーを落としてしまい、失敗してしまう。持永は結局1m70で5位であった。小福田は1跳目にバーを落としてしまうが、2跳目でこの高さを成功させる。次の高さは1m80。倉員は惜しい跳躍を見せるものの、3跳とも失敗してしまう。小福田も自己記録であるこの高さの成功が期待されたが、3跳とも失敗してしまう。

結局1m75で倉員2位、小福田3位であった。この種目で11点を取り、京大に1点勝ち越すことができた。フィールド競技で

は朝一番の種目であったため、いい流れを引き寄せることができた。

10:30 男子ハンマー投 決勝

小林(4年)、庄司(4年)、寺島(2年)の出場。フィールド最初の種目であり、勝ち越して今後に勢いをつけたいところである。この種目を専門にしている庄司、寺島が上位を占め、小林がどこまで京大勢に食い込めるかが勝負となった。

2年ぶりにハンマー投に出場した小林は2投目に27m22の自己ベストを投げ、調子の良さを見せる。しかし、それ以降は思い切った投擲をするものの記録を伸ばすことができず、2投目の記録で京大の3番手には届かず6位となった。庄司は緊張のため、1投目、2投目をファールしてしまう。次の3投目で記録を残し緊張がほぐれ、4投目で36m69を投げ京大勢の記録を一気に抜き去る。結果的にはこの記録で2位となった。寺島は1投目をファールしてしまう。しかし2投目に記録を残すと投げる度に記録を伸ばしていき、6投目に39m13を投げて1位となった。

京大勢が好調で小林が食い込んでいけなかったことは残念であったが、庄司、寺島はしっかりと自分たちの仕事をしたといえる。結果、この種目で東大は12点、京大は9点獲得し、3点勝ちとなった。

11:30 男子走幅跳 決勝

尾崎(3年)、武安(3年)、廣瀬(2年)の出場。数日前までの寒さが嘘だったかのように天候に恵まれ、気温も少し暑いと感じるくらいまで上がった。風はほとんど吹いていなかったが、競技開始の直前に助走が追い風になるようにピットの位置を変えたため、少し慌ただしい中でのスタートとなった。

廣瀬は4跳目で6m36を跳んで3位となったが、数週間まで太ももを痛めていたために本調子にはほど遠い内容で、4跳目以外はすべてファールであった。来年以降の対校戦での活躍を期待したい。武安は全体としてはファールに苦しみながらも、1跳目で6m96を記録して2位となった。尾崎は2跳目で7m23を跳び、優勝を飾った。3跳

め以降も記録更新を狙ったが、ファールを連発し、叶わなかった。武安と尾崎はほぼ実力通りの活躍をしたと言っているだろう。

結果、走幅跳ではスコルク勝ちを収め、東大走幅跳陣の層の厚さと京大との差を見せつけ、総合優勝に大きく貢献した。今年最後の対校戦でスコルク勝ちという素晴らしい内容の勝ち方をできたということはとても意義のあることであろう。

11:30 女子走幅跳 決勝

宮崎(4年)、大久保(2年)の出場。

宮崎は、練習の成果が見られ、1跳目から4m09のまずまずの跳びを見せる。しかし、2跳目でファールをしてしまい、そこから立て続けに合計3回のファールをしてしまう。しかし、5跳目で4m42を出し自己ベストを8cm更新する形となった。大久保は、1跳目で4m37の記録を出し、3跳目までは1位をマークするものの、京大選手二人に順位を塗り替えられてしまう。しかし、最終跳躍で4m53を出し、自己ベストを21cmも更新できた。

大久保が3位、宮崎は4位に終わってしまい、京大との点差をつけられてしまったが、それぞれがベストを更新できたという、シーズンを締めくくるに良い試合結果となったといえるに違いない。

11:45 男子円盤投 決勝

持永(5年)、小林(4年)、庄司(4年)の出場。3人とも最後の対校戦となる。

持永は練習からベスト近くをマークし調子のよさを見せる。本番では一投目こそ力んで失投になるが5投目に28m66を投げ5位になる。小林は安定してベスト近い記録を投げるも30mには届かず29m35の4位で終了。庄司は途中まで記録が良くなかったが、最後の1投は意地を見せ29m61で3位に入った。

13:15 男子棒高跳 決勝

持永(5年)、木村(4年)、大谷(3年)の出場。気温が上がってきて良いコンディションの中、競技は開始された。

このところ調子を上げている木村は2m80から試技を開始して順調に3m、3m20、3m40をクリアしていった。そこからは勝負

に出て10cm刻みに高さを上げていく。続く3m50も1跳目で成功して自己記録の更新も期待させたが、3m60でタイミングが合わず惜しい跳躍はあったものの3跳とも失敗してしまう。持永は3m20から試技を開始した。時間のかぶっている砲丸投にも出場しているため集中しづらい状況ながら少ない試技数でしっかり3m60を跳んだのはさすがである。大谷は3m80から試技を開始し、これを1跳目で成功。その後、京大の選手が3回失敗してこの時点で大谷の優勝が決まった。大谷は自己記録の更新をねらって4m40に挑むが失敗してしまう。

結果、大谷1位(3m80)、持永4位(3m60)、木村5位(3m50)で勝ち越すことができた。

13:30 男子砲丸投 決勝

持永(5年)、小林(4年)、北川(3年)の出場。投擲競技の3種目め、昼ごはんを食べて気力体力ともに充実したプッター達の熱き戦いが始まろうとしていた。

ほとんどの選手が持ち記録10m中盤という中で、ただ一人11m中盤の記録を持っている京大の実力者が一投目で実力どおり11m38を投げる。自然これを追う形の試合展開となった。小林は午前中にあったハンマー、円盤の疲れが出たためか9m台からのスタートという厳しい状況。しかし、これが学部生として最後の競技、という熱い思いから4投目に気合の10m36をマークする。その結果5位となり3種目出場という大役をしっかりとこなした。持永も同じく多種目出場をしており砲丸の練習はそこそこしかできていなかったが、4投目に10m56を出し4位になった。北川は最近砲丸が専門種目になりつつあり毎回無駄に新投方を編み出しているが、今回は不発でいまいち記録が伸びなかった。結局従来のステップ投方で2投目に10m69を出し2位となった。

結果東大10点、京大11点と1点負け越したが、3人とも十分な働きをしてくれた。持永と小林には来年院チームでのさらなる活躍を期待したい。

13:30 女子砲丸投 決勝

三谷(4年)、楠木(2年)の出場。前日の補欠入れ替えで京大側には今季ベスト 8m40の早瀬が出場することになり、共にベストが7m70台である三谷と楠木は苦戦を強いられることが予想された。しかし、2人とも練習で8mに近い記録を出したこともあり、早瀬に勝つ可能性も十分にあった。

三谷は当日体調がすぐれなかったせいもあり序盤から記録が振るわず、3投目で何とか7m57まで調子を上げたがその後の2投ファールを連発してしまい、結局ベストは3投目の7m57で3位に終わった。楠木は1投目からこれまで投げたことのない8m台を記録し、その後の投擲でも8mに迫る記録を出し続けた。5投目で自己ベストとなる8m25を記録し、その時点までで7m台の記録しかない早瀬から勝ち逃げるものと思われたが、6投目で突如8m31を記録した早瀬に逆転され、結局楠木は8m25で2位であった。三谷は自己記録に及ばず、楠木は6cm差で優勝を逃し両選手とも悔しい結果となった。

7月に入部し対校戦で女子チームに大きく貢献してきた三谷もこの試合で引退になってしまう。今後に残る楠木は、さらに成長し、来年は今年僅差で優勝を逃した試合で確実に優勝してほしい。

14:00 男子三段跳 決勝

倉員(4年)、武安(3年)、廣瀬(2年)の出場。心地よい追い風が常に吹く中での競技となった。午前中の各競技では好勝負が見られ、三段跳びでも高記録と好勝負が期待できる。

廣瀬はまだハムストリングスが治りきっていない中ではあるが、それでも13m67を跳び5跳目までは3位だったのだが、最後に京大の選手に抜かれて惜しくも4位に終わった。倉員、武安ともに3跳目をおえて14m台前半の記録を出し、トップ争いを繰り広げる。その中で、倉員の4回目の跳躍。自己記録を23cm超える14m65の記録でトップに立つ。その直後の武安の跳躍。ジャンプがつぶれず14m61と1位に迫る。倉員はその後6回目の跳躍で14m86とさらに自己記録を上回り、自身最後の対校戦

を劇的な優勝という最高の形で締めくくった。武安、廣瀬はそれぞれ2位、4位をとり快勝であった。この種目だけで京大と9点の差をつける結果となった。

14:00 男子やり投 決勝

関原(4年)、北川(3年)、谷(2年)の出場。天候、気温ともに良好で、少し風が吹いてはいたが絶好の条件であった。

最後の対校戦を迎えた関原の活躍と投擲の対校勝ち越しが期待された。第一投目、関原はなんと自己記録を5mほども更新する56m28の大投擲を見せ、この一投ですべてが決まったといっても過言ではなかった。そして北川、谷はまずまずの記録を残し、終始スコンクを匂わせる展開であった。

一方京大は三人の選手とも記録が伸びないまま最終投擲を迎えた。会場の温かい手拍子も手伝ってか北川が51m37で記録を伸ばし、京大の二選手も記録を伸ばしてきたがあと一步及ばずスコンク勝ちが決定した。

そして最終投擲者の谷が大会記録に16cmと迫る63m76の自己ベストを出し、会場の盛り上がりとともに全試技が終了した。

今回は結果的に5選手が50mを超えており試合のレベルとしては決して低くはなかったが、関原の会心の一投目で投擲の勝ち越し、そしてチームの勝利をも決めてしまったといえるだろう。来年度から阪大に編入する関原は、今までいったい何をしてきたのだと思わせる大投擲とともに阪大へと去っていき、強力なライバルとなりそうだ。

1.5 試合結果

第80回東京大学 京都大学対校陸上競技大会

第6回東京大学 京都大学対校女子陸上競技大会

於 東京大学教養学部第一グラウンド
(H19.10.7)

男子 100m 決勝 (-1.6)		
1	吉田繁治	京都大 11.19
2	藤本元太	東京大 11.51

3	<u>福田篤</u>	東京大	11.51
4	<u>都井紘</u>	東京大	11.64
5	<u>七野雅史</u>	京都大	11.84
6	<u>大野敦史</u>	京都大	12.27

男子 200m 決勝 (+1.0)

1	<u>今村岳</u>	東京大	22.70
2	<u>藤本元太</u>	東京大	23.23
3	<u>吉川直樹</u>	京都大	23.72
4	<u>七野雅史</u>	京都大	24.48
5	<u>久保慶護</u>	京都大	30.34
6	<u>福田篤</u>	東京大	31.18

男子 400m 決勝

1	<u>兵頭直弥</u>	東京大	50.17
2	<u>深澤眞楠</u>	東京大	51.05
3	<u>藤崎淳</u>	京都大	51.56
4	<u>梶岡利之</u>	東京大	51.58
5	<u>押野泰平</u>	京都大	51.90
6	<u>大野敦史</u>	京都大	56.76

男子 800m 決勝

1	<u>前川真彦</u>	京都大	1:57.17
2	<u>佐藤翔士</u>	京都大	1:57.50
3	<u>小林弘尚</u>	京都大	1:58.35
4	<u>渡邊拓也</u>	東京大	1:58.83
5	<u>斉藤俊</u>	東京大	1:59.03
6	<u>川口祐貴</u>	東京大	1:59.36

男子 1500m 決勝

1	<u>小山俊之</u>	京都大	4:03.20
2	<u>松本翔</u>	東京大	4:04.32
3	<u>小山裕之</u>	京都大	4:04.36
4	<u>月崎竜童</u>	東京大	4:07.71
5	<u>斉藤俊</u>	東京大	4:08.13
6	<u>鈴木達哉</u>	京都大	4:24.97

男子 5000m 決勝

1	<u>松本翔</u>	東京大	14:54.84
2	<u>近藤学宏</u>	京都大	14:57.57
3	<u>石原宏尚</u>	東京大	15:12.52
4	<u>小山俊之</u>	京都大	15:16.33
5	<u>竹俣直道</u>	東京大	15:19.67

6	<u>小山裕之</u>	京都大	15:41.34
---	-------------	-----	----------

男子 110mH 決勝 (-0.9)

1	<u>尾崎翔</u>	東京大	15.47
2	<u>萩澤佑樹</u>	京都大	16.37
3	<u>前川真彦</u>	京都大	16.44
4	<u>武安光太郎</u>	東京大	16.58
5	<u>金村進介</u>	京都大	19.61
6	<u>酒谷彰一</u>	東京大	23.67

男子 400mH 決勝

1	<u>前川真彦</u>	京都大	54.98
2	<u>井上智志</u>	京都大	55.47
3	<u>深澤眞楠</u>	東京大	55.78
4	<u>酒谷彰一</u>	東京大	56.20
5	<u>岡本京祐</u>	京都大	58.02
6	<u>門脇啓太</u>	東京大	59.00

男子 4 × 100mR 決勝

1	京都大	42.60
2	東京大	43.14

(都井-藤本-福田-尾崎)

男子 4 × 400mR 決勝

1	東京大	3:22.61
2	京都大	3:22.93

(梶岡-深澤-小澤-兵頭)

男子走幅跳決勝

1	<u>尾崎翔</u>	東京大	7m23(+1.6)
2	<u>武安光太郎</u>	東京大	6m96(+0.3)
3	<u>廣瀬彬</u>	東京大	6m39(+0.9)
4	<u>高峰真介</u>	京都大	6m05(±0.0)
5	<u>三浦裕介</u>	京都大	5m98(+1.7)
6	<u>谷口康晴</u>	京都大	5m91(+1.3)

男子三段跳決勝

1	<u>倉員智瑛</u>	東京大	14m86(+0.1)
2	<u>武安光太郎</u>	東京大	14m61(-0.5)
3	<u>吉良佳晃</u>	京都大	13m71(+0.6)
4	<u>廣瀬彬</u>	東京大	13m67(+0.2)
5	<u>秋山源</u>	京都大	13m19(+0.8)
6	<u>高峰真介</u>	京都大	12m43(-0.2)

男子走高跳決勝

1	三浦裕介	京都大	1m80
2	倉員智瑛	東京大	1m75
3	小福田大輔	東京大	1m75
4	巳波 壮馬	京都大	1m70
5	持永新	東京大	1m70
-	皆川広太	京都大	NM

男子棒高跳決勝

1	大谷真人	東京大	3m80
2	小西康晴	京都大	3m70
3	三浦裕介	京都大	3m60
4	持永新	東京大	3m60
5	木村剛	東京大	3m50
6	萩澤佑樹	京都大	3m40

男子砲丸投決勝

3	嶋田研志郎	京都大	11m25
2	北川昂広	東京大	10m69
3	佐藤慎祐	京都大	10m67
4	持永新	東京大	10m56
5	小林宗隆	東京大	10m36
6	山本貴之	京都大	10m24

男子ハンマー投決勝

1	寺島孝明	東京大	39m13
2	庄司宇	東京大	36m69
3	加納侑直	京都大	34m76
4	佐藤慎祐	京都大	33m84
5	吉崎敬祐	京都大	33m75
6	小林宗隆	東京大	27m22

男子円盤投決勝

1	吉崎敬祐	京都大	33m67
2	佐藤慎祐	京都大	30m95
3	庄司宇	東京大	29m81
4	小林宗隆	東京大	29m35
5	持永新	東京大	28m66
6	三浦裕介	京都大	27m08

男子やり投決勝

1	谷彰一郎	東京大	63m76
---	------	-----	-------

2	関原孝之	東京大	56m28
3	北川昂広	東京大	51m37
4	山本貴之	京都大	50m91
5	佐藤真祐	京都大	50m56
6	有山啓史	京都大	44m73

男子トラック順位

1	京都大	92
1	東京大	92

男子フィールド順位

1	東京大	97
2	京都大	70

男子総合順位

1	東京大	189
2	京都大	162

女子100m 決勝 (±0.0)

1	早瀬紗也佳	京都大	13.27
2	富田夏希	京都大	13.72
3	清水蘭	東京大	13.85
4	大久保渥子	東京大	14.10

女子400m 決勝

1	日下桃子	東京大	63.53
2	清水蘭	東京大	65.98
3	福谷沙織	京都大	67.65
4	廣瀬亜由美	京都大	70.52

女子800m 決勝

1	日下桃子	東京大	2.34.62
2	福谷沙織	京都大	2.39.82
3	片山裕美子	京都大	2.42.91
4	宮崎彩	東京大	3.00.34

女子3000m 決勝

1	日下桃子	東京大	11.50.04
2	森山友紀子	京都大	12.00.86
3	中村有里	京都大	12.10.59
4	清水蘭	東京大	17.49.32

女子4×100mR 決勝

1	<u>東京大</u>	53.63
(大久保-清水-宮崎-日下)		
2	京都大	53.78

女子走幅跳決勝

1	<u>早瀬紗也佳</u>	京都大	5m09(+1.2)
2	<u>富田夏希</u>	京都大	4m88(+1.8)
3	<u>大久保渥子</u>	東京大	4m54(+1.3)
4	<u>宮崎彩</u>	東京大	4m43(-0.1)

女子砲丸投決勝

1	<u>早瀬紗也佳</u>	京都大	8m31
2	<u>楠木千尋</u>	東京大	8m25
3	<u>三谷由樹</u>	東京大	7m57
4	<u>野尻真裕美</u>	京都大	6m63

女子トラック順位

1	<u>東京大</u>	24
2	京都大	22

女子フィールド順位

1	京都大	12
2	<u>東京大</u>	8

女子総合順位

1	京都大	34
2	<u>東京大</u>	32

2 新主将・新女子主将・新主務の言葉

2.1 新主将の言葉

尾崎 翔

これから一年間主将をつとめさせていただく、短距離パート三年の尾崎です。先日の京大戦では80回記念ということもあり、いつも以上にたくさんのOB・OGのご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

さて、今年の我が部の主要な試合も箱根駅伝予選会を残すのみとなり、今シーズンを振り返り、来シーズンへ向けての目標を考えるべき時期となっています。今シーズンの我が部は、昨年主要な大会で立て続けに勝利を収めてきた主要メンバーが残り、順当

にいけば七六、京大戦ともに優勝候補の筆頭であり、あわよくば関東インカレでも近年にない結果を残せる陣容だと思われてきました。

しかし結果として残ったのは、関東インカレ、七六戦での惨敗。そして最終戦の京大戦でようやく好結果を残すという、手放して満足するには程遠い内容でした。この原因としましては、冬場の練習を通じての部員のレベルアップの少なさ、さらには本番にピークを持っていくことができないという調整の拙さがあると思います。これらは今年にのみ言えることではなく、近年の我が部の課題であり続けていると思います。つまり、このことが近年の我が部の弱体化の主な要因であり、逆にこれらの弱点を解消することで、将来的に強い東大陸上部を取り戻すことができると確信しております。

この、強い東大、ひいては史上最強の東大陸上部の第一歩を踏み出すというのが私の掲げる今年一年の目標になります。そのためにも、まずは部員全体の意識改革を進め、強い部活が持つべき特有の雰囲気というものを身につけたいと思っています。その上で自分たちも最高の成長をし、必ずや関東インカレ1部昇格も達成します。ただ強くなるというよりも遥かに険しい道になるとは思います。しかし、5年後6年後に日本インカレで総合優勝争いができるような部活になることを信じて力強く突き進みたいと思います。これから一年、ますますご声援のほどよろしく申し上げます。

2.2 新女子主将の言葉

日下 桃子

この度、女子主将を引き継ぎました中距離パート2年の日下です。4年生が引退し、2年生4人、1年生1人の5人でのスタートとなります。決して人数的に多いとは言えませんが、それぞれ専門種目も異なりとてもバランスの良いチームだと思います。2年生のうち2人は昨年の秋や今年の春に入部し、1年生と共に、対校選手としての初めての1年を過ごしました。初めは慣れないこともあったようですが、今では頼もしい存在です。

来年以降も、それぞれの競技力を伸ばすと共に、部員獲得にも力を入れ、対校戦での勝利を目指していきたいと思っています。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2.3 新主務の言葉

小福田 大輔

新しく主務を務めさせていただくことになり、跳躍3年の小福田と申します。これから1年間、OBやOGの皆様には色々とお世話になるかと思ひます。よろしくお願ひいたします。先代から引き継いだ主務の仕事の質を落とさないように、精一杯努力して行く所存であります。そして、一競技者としても最大限の結果を残せるよう、努力してまいります。対校戦の折には、是非とも会場まで足を運んで下さいませ。そして、今回の京大戦のように、OBやOGの皆様と勝利の味をかみしめたい、と思っております。今後ともご声援・ご支援のほどを宜しくお願ひいたします。

3 自己記録更新者一覧 2007.9.8 ~ 10.7

9/23 日体大長距離競技会(日体大)

800m	渡邊 拓也(1年)	1'58"59
800m	西川 鋭(2年)	2'06"42
800m	日下 桃子(2年)	2'19"11
5000m	鳶田 洸一(1年)	16'31"48

10/7 京大戦(東京大学教養学部第一グラウンド)

200m	堀越彩香(D2)	27"42
800m	西川 鋭(2年)	2'06"16
5000m	井上 雄介(1年)	17'05"41
5000m	加藤 拓哉(1年)	16'52"59
5000m	鳶田 洸一(1年)	16'25"79
5000m	庄司 健太(1年)	16'56"29
5000m	竹俣 直道(1年)	15'19"67
5000m	中島 圭一(1年)	16'51"81
5000m	井出 昌宏(2年)	16'45"09
400mH	深澤 眞楠(3年)	55"78
400mH	酒谷 彰一(1年)	56"20
幅跳び	宮崎 彩(4年)	4m43(-0.1)
三段跳	倉員 智瑛(4年)	14m86(-0.1)
幅跳び	大久保 渥子(2年)	4m54(+1.3)
砲丸投	楠木 千尋(2年)	8m25
やり投	関原 孝之(4年)	56m28
やり投	谷 彰一郎(2年)	63m76
ハンマー投	寺島 孝明(2年)	39m13

4 2006年度部内5傑 2007.10.7 現在

男子 100m

1	藤本 元太(4年)	10"91(+1.3)	8.12
2	渡辺 裕太(2年)	11"01(+1.5)	4.22
3	今村 岳(4年)	11"22(+1.9)	5.4
4	都井 紘(2年)	11"25(-0.3)	5.26
5	福田 篤(3年)	11"28(+1.4)	5.4

男子 200m

1	今村 岳(4年)	22"52(+1.0)	5.26
2	渡辺 裕太(2年)	22"55(-0.2)	5.12
3	福田 篤(3年)	22"93(+0.3)	7.7
4	藤本 元太(4年)	23"23(+1.0)	10.7
5	兵頭 直弥(1年)	23"29(+0.4)	9.23

男子 400m

1	兵頭 直弥(1年)	49"50	7.29
2	深澤 眞楠(3年)	50"66	5.3
3	今村 岳(4年)	51"06	9.8
4	梶岡 利之(3年)	51"09	4.29
4	藤本 元太(4年)	51"09	9.8

男子 800m

1	斉藤 俊(4年)	1'56"82	4.29
2	野村 圭吾(2年)	1'57"75	4.14
3	渡邊 拓也(1年)	1'58"59	9.23
4	川口 祐貴(2年)	1'59"36	10.7
5	坂井 啓一(2年)	1'59"59	7.7

男子 1500m

1	石原 宏尚(4年)	3'58"70	4.29
2	松本 翔(4年)	3'59"79	7.29
3	斉藤 俊(4年)	4'03"12	7.29
4	月崎 竜童(4年)	4'03"95	4.14
5	野村 圭吾(2年)	4'06"67	4.29

男子 5000m

1	松本 翔(4年)	14'30"18	6.24
2	石原 宏尚(4年)	15'12"52	10.7
3	竹俣 直道(1年)	15'19"67	10.7
4	斉藤 俊(4年)	15'29"82	6.24
5	梶井 駿介(3年)	15'32"04	6.24

男子 10000m

1	松本 翔(4年)	29'54"51	5.19
---	----------	----------	------

男子 110mH

1	尾崎 翔 (3年)	15"32(-2.3)	7.29
2	酒谷 彰一 (1年)	15"92(-0.9)	9.8
3	武安 光太郎 (1年)	16"20(-0.9)	9.8
4	持永 新 (5年)	17"16(-0.6)	5.13
5	増本 健太郎 (1年)	17"25(-1.0)	7.29

男子 400mH

1	深澤 眞楠 (3年)	55"78	10.7
2	酒谷 彰一 (1年)	56"20	10.7
3	伊勢田 明弘 (5年)	56"75	5.4
4	門脇 啓太 (3年)	59"00	10.7
5	江間 輝裕 (1年)	59"49	6.17

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (4年)	9'22"89	7.29
2	月崎 竜童 (4年)	9'47"90	7.29
3	山本 祥 (4年)	10'33"53	6.16
4	松永 将幸 (3年)	10'41"34	7.7

男子 10000mW

1	和田 光一郎 (3年)	48'28"97	5.18
2	菅野 雄大 (4年)	48'54"44	4.15
3	北沢 太郎 (3年)	50'53"82	5.18

男子 走幅跳

1	尾崎 翔 (3年)	7m28	5.13
2	武安 光太郎 (3年)	7m18	5.4
3	廣瀬 彬 (2年)	6m71	5.4
4	西田 昂広 (1年)	6m47	7.7
5	倉員 智瑛 (4年)	6m38	7.7

男子 三段跳

1	倉員 智瑛 (4年)	14m86	10.7
2	武安 光太郎 (3年)	14m61	10.7
3	廣瀬 彬 (2年)	14m02	5.4
4	西田 昂広 (1年)	13m09	9.8
5	大谷 真人 (3年)	12m95	5.26

男子 走高跳

1	小福田 大輔 (3年)	1m80	7.7
2	倉員 智瑛 (4年)	1m75	7.29
2	持永 新 (5年)	1m75	4.14
4	地子 智浩 (2年)	1m60	5.26
5	荒井 博貴 (2年)	1m50	7.7

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (3年)	4m20	5.19
2	持永 新 (5年)	3m60	5.13
3	木村 剛 (4年)	3m40	4.14
4	関原 孝之 (4年)	3m00	5.26
5	原 湖楠 (1年)	2m60	9.8

男子 砲丸投

1	北川 昂広 (3年)	11m07	5.26
2	小林 宗隆 (4年)	10m84	7.29
3	持永 新 (5年)	10m32	5.26
4	寺島 孝明 (2年)	9m02	9.8
4	庄司 宇 (4年)	8m39	9.8

男子 円盤投

1	小林 宗隆 (4年)	31m22	4.14
2	庄司 宇 (4年)	31m13	4.14
3	持永 新 (5年)	30m25	7.7
4	谷 彰一郎 (2年)	28m94	7.29

男子 ハンマー投

1	寺島 孝明 (2年)	39m13	10.7
2	庄司 宇 (4年)	38m15	5.4
2	小林 宗隆 (4年)	27m22	5.4
4	葉梨 輝 (3年)	14m51	7.29

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (2年)	63m76	10.7
2	関原 孝之 (4年)	56m28	10.7
3	北川 昂広 (3年)	53m37	10.7
4	葉梨 輝 (3年)	46m91	8.23
5	千葉 伸宏 (1年)	45m12	9.8

男子 十種競技

1	持永 新 (5年)	5682点	5.12-13
---	-----------	-------	---------

女子 100m

1	清水 蘭 (2年)	13"25(+2.0)	7.29
2	大久保 渥子 (2年)	13"78(+0.5)	7.7

女子 200m

1	清水 蘭 (2年)	28"21(+1.3)	6.17
---	-----------	-------------	------

女子 400m

1	日下 桃子 (2年)	61"92	5.26
2	清水 蘭 (2年)	64"45	9.8
3	大久保 渥子 (2年)	68"99	9.8

女子 800m

1	日下 桃子 (2年)	2'19"11	9.23
1	宮崎 彩 (4年)	3'00"34	10.7

女子 1500m

1 宮崎 彩(4年) 7'24"88 9.8

女子 3000m

1 日下 桃子(2年) 11'16"74 7.29

1 清水 蘭(2年) 17'49"32 10.7

女子 棒高跳

1 宮崎 彩(4年) 1m80 5.4

女子 走幅跳

1 高山 花子(1年) 4m89 5.26

2 大久保 渥子(2年) 4m53 9.8

3 宮崎 彩(4年) 4m42 9.8

女子 砲丸投

1 楠木 千尋(2年) 8m25 10.7

2 三谷 由樹(4年) 7m71 9.8

3 宮崎 彩(4年) 5m89 7.29

女子 やり投

1 楠木 千尋(2年) 21m76 7.7

2 大久保 渥子(2年) 15m70 5.26

5 主務より

主務より 4点ございます。

5.1 応援OB・OG紹介

10月7日(日)、駒場グラウンドにて行われました京大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1944年卒 川村次郎

1948年卒 山崎英也

1952年卒 澤島政行

1955年卒 浅澤誠夫

1955年卒 杉山泰夫

1957年卒 藤田宏明

1958年卒 浦野穂昌

1958年卒 加藤博夫

1959年卒 奥山彰宏

1960年卒 稲葉滋

1960年卒 梅田圭良

1960年卒 笹治峻

1961年卒 宮下国生

1962年卒 相馬光之

1962年卒 辻義弘

1963年卒 浅野勝己

1963年卒 井上尚男

1963年卒 篠原健

1964年卒 八島秀雄

1965年卒 石堂怜

1965年卒 井原鉄雄

1966年卒 足立三朗

1966年卒 上田裕一

1966年卒 土谷喬

1966年卒 村田歎吾

1967年卒 伊澤敏彦

1967年卒 林義之

1968年卒 倉田喜弘

1968年卒 小林寛道

1968年卒 湯浅味代士

1969年卒 森茂雄

1970年卒 横坂敏彦

1973年卒 横田逸郎

1975年卒 小手川強二

1976年卒 田上静之

1976年卒 手塚育志

1976年卒 宮地薫

1977年卒 海宝明

1979年卒 中谷敬二

1979年卒 藤沢治雄

1980年卒 山本利徳

1981年卒 坂本修一

1982年卒 石村達清

1983年卒 浅野浩二

1983年卒 伊吹仁宏

1983年卒 梅本道生

1983年卒 景山太郎

1983年卒 八田秀雄

1984年卒 清水明

1984年卒 半田禎

1984年卒 渡辺吏

1986年卒 大谷薫

1986年卒 桑原振一郎

1986年卒 半田敬信

1990年卒 井樋田悟史

1990年卒 松岡建志

1991年卒 小野満

1993年卒 桜井亮太

1994年卒 神田潤一

1994年卒 工藤麻衣子

1995年卒 伊藤みどり

1996年卒 伊藤亮治
 1998年卒 大嶽浩司
 1999年卒 明石顕
 1999年卒 佐藤仁志
 1999年卒 保泉学
 2000年卒 藤原大二
 2000年卒 渡辺国広
 2001年卒 岡野浩行
 2001年卒 近藤航介
 2001年卒 中台慎二
 2001年卒 新妻拓弥
 2001年卒 西村邦裕
 2002年卒 佐藤康治
 2003年卒 相原佑康
 2003年卒 川添雄太
 2003年卒 高梨幹生
 2003年卒 橋本武
 2003年卒 藤原啓
 2004年卒 石井康雄
 2004年卒 今泉勇
 2004年卒 笹原翔太
 2005年卒 池田大行
 2005年卒 桑原明
 2005年卒 式場健太
 2005年卒 高橋竜一
 2005年卒 藤田靖浩
 2006年卒 塩入敦子
 2006年卒 田中佑貴
 2006年卒 米田武史
 2007年卒 磯部洋輔
 2007年卒 岩永将太
 2007年卒 梅沢啓
 2007年卒 小野剛志
 2007年卒 岡田良平
 2007年卒 片岡哲朗
 2007年卒 河本和美
 2007年卒 合田隆彦
 2007年卒 後藤真美
 2007年卒 小原明恵
 2007年卒 佐野太郎
 2007年卒 清水里紗
 2007年卒 竹内昌男
 2007年卒 田上遼
 2007年卒 氷上将一
 2007年卒 平原唯灯
 2007年卒 藤岡あずみ

2007年卒 向田恵
 2007年卒 安田理絵

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

5.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 箱根駅伝予選会
10/20(土) 立川
- 第5回東大競技会
10月27(土)、28(日) 駒場
- OB ゴルフコンペ
11/11(日) 季美の森(予定)

5.3 学生幹事の交代

学生幹事の交代をお知らせいたします。

- 主将 倉員智瑛 尾崎翔
- 女子主将 宮崎彩 日下桃子
- 主務 山本卓典 小福田大輔

5.4 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:小福田大輔

〒133-0056 東京都江戸川区南小岩 3-5-13

TEL : 090-8046-2117

FAX : 03-3673-5819

E-mail : swe-ep-red19@hotmail.co.jp

以上です。今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主務 山本 卓典

文責：田中 裕一郎